第55号

小野の福祉だより

小野地区社会福祉協議会機関誌

発　行
小野地区社会福祉協議会
郵便番号：791-0244
住所：
電話：
発行責任者：青木　良一
印刷所：宮内企画

地域力・ご近所力を生かした防災を

小野地区
社会福祉協議会
会長　青　木　良　一

本年一月一日、帰省した家族と過ごす中、能登半島地震が発生し、一ヶ月が経過、死者二百三十八名、不明者十九名と発表されました。

地震直後の避難報道が遅く、テレビには、寸断され隆起した道路が映し出されたが、倒壊した家屋の多さに驚愕した。また、避難所の開設も遅く感じたのは、私だけでしょうか。細長い半島地域での災害発生であり、道路寸断により現地への到着に時間を要した報道も多く目にしました。

避難所として思いつくのは、公民館、学校等があるが、被災者全員を収容するスペースには程遠い状況であろう。その中でも特質した避難所とし、自宅の庭に設置した農業用ビニールハウスを使った自主避難所の報道があり、十六年前の熊本地震でも見た光景でした。

自宅前のビニールハウスに近隣の方々が集まり、倒壊した建物から石油ストーブを持込み、正月の餅などを焼いて食べ、家から漬物も調達し当面の食料を確保した。地震には強いし、畑もあるので余震が落ち着いた頃、畳や毛布を持ち寄り寝る場所を確保したそうである。電気の復旧後に照明、電子レンジなども持ち寄り、テレビまで設置されていた。トイレは倒壊を免れた家屋を利用し、雪解け水を使って流した。パイプで飲料水を確保、風呂まで完備したハウスもあり、「避難所よりも気疲れせずに暮らせる」とのコメントが記載されていました。

小野地区においても、地域によっては検討する価値のある避難所と思われるが、どのくらい利用できる設備があるのだろう。そしてどのくらいの人が利用可能だろうか。長期避難や二次避難までの数日間の一次避難所としては公的避難所より快適そうである。小野地区の特徴である「地域力・ご近所力」を生かせる避難所ではないでしょうか。

公的機関関係者や防災関係者からは、クレームが付くでしょうが、緊急時の選択肢の一つとして、各地区防災会及び自主防災連合会でも検討をしてみてはいかがでしょうか。

ご挨拶

小野地区
民生児童委員協議会
会長　奥　村　芳　樹

小野地区の皆様には、赤い羽根共同募金を始めとした民生児童委員活動にご支援とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、民生児童委員協議会では、令和4年12月1日に3年に1度の一斉改選があり、新任民生児童委員10名が委嘱され、26名体制で活動を行っております。よろしくお願いします。

コロナウイルス感染が5類に分類変更されてから行動制限は解除されましたが、行動制限されている間に高齢者の知力・体力は、本人が認識している以上に低下しているという統計があるとのことです。

また近年、私たちを取り巻く社会環境は大きく変化し、地域の高齢者の増加や近隣者との付き合の希薄化、子供に対する虐待やいじめなど様々な問題が生じてきています。

民生児童委員は、地域の身近な相談相手として皆様に寄り添い、支援を必要とする人々が孤立することのないよう、近隣の人々の暮らしを気に掛ける「みまもり」活動をしながら、地域の皆様が安全で安心して暮らすことができるよう、同じ町に住む住民の立場で行政とのパイプ役として活動しています。

これからも、公民館及び社会福祉協議会等、地域内の関係団体と連携を図りながら「ささえあい心をつなぐ」を目標に取り組んでまいります。

今後とも、皆様のなお一層のご支援・ご協力をよろしくお願いします。

包括支援センター小野久米

～小野久米地区ケアセミナー　〝老いるあなたは何を備えるか〟を開催しました！～

2024年の幕開けは思いもよらぬ能登半島大地震でした。災害に対しての備えは十分過ぎるということはないことを実感しました。そして何より、「あたりまえ」の日常と「ありのまま」に暮らせる幸せに「ありがとう」という思いを忘れてはいけないなと思いました。

包括支援センター小野久米でも、みなさんが気軽に相談できる窓口としてさらに頑張っていこうと心新たにしています。

さて、そんな新年一発目の包括支援センター小野久米のイベントが1月22日にありました。久しぶりの大型セミナー「小野久米地区　ケアセミナー　老いるあなたは何を備えるか」

講師に『元気が出る介護研究所』の高口光子さんをお呼びしました。

高口さんは理学療法士でありながら、医療リハビリの現場で感じた高齢者介護への疑問と向き合うために高齢者施設の介護職へと転職します。そこで、真摯に現場に向き合い続ける高口さんは能力を発揮し、新しい施設の立ち上げなどに関わるようになります。現在は講師として多数の講演をこなすかたわら、介護現場のリーダーの育成などにあたっています。

今回は高口さんの講演からエッセンスを届けたいと思います。

高口さんが「家族」について語りました。誰もが大事な家族が病気になり、治療が必要になった時、医師にこう訴えます。〝私にとってこの人はかけがえのない人なんです。どうかどうか命だけでも助けてください。生きてさえいてくれたらそれだけでいいんです・・・！〟

家族へのありたっけの愛を込めて、懇願します。

そして治療のかいあり、一命をとりとめ自宅へ帰ります。しかし以前とまったく同じというわけにはいきません。麻痺が残り、認知機能の低下もあり、在宅介護が必要な状態です。

在宅介護をして数年・・・こう言います。

〝もう、毎日毎日毎日介護の日々。こんなことになるならあの時いっそ・・・（自主規制）〟

まるで相反するようなこの言動。しかし、これが家族なんです、と高口さん。

そして介護に関わるプロたちは〝この人はかけがえのない大事な人なんです〟という家族の愛ある言動を再び思い出させることができなくてはだめなんだ、と。

会場には介護に関わる専門職もたくさんいました。高口さんのこの言葉、思いが伝わったでしょうか。

さらに高口さんは来場者にこう問いかけました。

「神様があなたを長生きさせてあげる、と言いました。100歳、いやそれ以上に長生きさせてあげる。ただ、条件がある、どちらかを選べ。〝寝たきりで長生き〟か〝認知症で長生き〟か。さぁ、あなたはどっちを選ぶ？」

まさに元気←←←死ぬまでの過程に「老い、弱っていく」という現実があることを我が事として考えざるを得ない問いかけでした。

人は誰でも等しく老いていきます。今は「備える時代」と言われています。自然災害も老いも人間みずからがコントロールし切れるものではありません。ならば、我が事、自分事として考え、備えていくことが必要です。ぜひみなさんも考えてみてください。

R6.2.1現在の小野のようす

人口（人）	17,206	男　8,210
		女　8,996
世帯数（戸）	8,063	
65歳以上（人）	5,500	
高齢化率（%）	32.0	

小野川柳クラブ

仙波　草苑　選

役立たず
光るなにかがひとつある
森﨑　慎平

でこぼこ道を
器に入れて生きている
山本　弥生

自分史を
上書きしても薄っぺら
宮内　裕子

小野川柳クラブ
毎月第四土曜日　小野公民館

小野地区青少年健全育成大会

令和5年度　小野地区青少年健全育成大会　人権標語

特選

小野中学校3年　宮内　美来　様　「「ありがとう」　繋がる心と　広がる輪」

小野小学校4年　渡部　陽　様　「ありがとう　すなおに言えて　かっこいい」

一　般　中村　真実　様　「あたりまえに　気付いた今こそ　ありがとう」

入選

小野中学校1年　中村　凜紗　様　「君がいる　1つ1つのあたりまえ　心をこめてありがとう」

小野中学校2年　宮内　優弥　様　「あたりまえ　実は誰かの　思いやり」

小野小学校1年　山内　陽翔　様　「きょうもまた　みんなにあえて　うれしいな」

小野小学校2年　長谷川翔惺　様　「マスクなし　あなたのえがおが　ホッとする」

小野小学校3年　山本陽一朗　様　「また明日　まってくれてる　友がいる」

小野小学校5年　藤原あおい　様　「コロナから　会えるうれしさ　学んだよ」

小野小学校6年　原　篤人　様　「いつでも会える　あたりまえじゃない　幸せな世界」

一　般　門田　雄次　様　「あたりまえ　無くしてから気付くよね　いつもの生活　日々感謝」

令和５年度赤い羽根共同募金のお礼

今年度の募金運動は、令和５年10月から12月のあいだに実施いたしました。
小野地区の皆さまのご協力により、下表のとおり募金が集まりました。ありがとうございます。

対　象	金　額	協　力　組　織
個　人	1,226,365	各地区・地域連絡協議会
一般・法人職域	895,000	小野地区社協・民児協
計	2,121,365	達成率　102.3%

＊目標額 … 2,072,800円

表彰者の紹介　R5.10.16　☆第71回愛媛県社会福祉大会　奉仕功労者　山内　幸雄

小野地区の自然を見つめて

愛媛県環境マイスター　白石成行

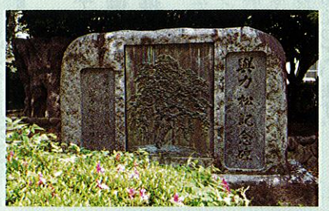
これらのことは、愛媛新聞社に取材していただき記録とし、他の池等についても周辺で生息している生き物等を調べてみるようになりました。

1　はじめに

小野地区に住み始めて、約46年になります。

小野小学校に初任者として、着任して6年間勤務させていただきました。それから理科教員として43年間勤め、現在は自然観察指導員　愛媛県環境マイスター　愛媛県自然保護指導員　愛媛県地球温暖化防止活動推進委員　愛媛県ボーイスカウト指導員　松山市エコリーダー　等として活動しています。小野小学校に勤務し始めたころ、児童がいろいろな生き物を理科室に持って来てくれるようになりました。驚いたのは、児童が、白いフナ・羽衣ブナ・ガムシを次々採集してきたことです。大池・股池等で児童が採集したものでした。

2　与力松の思い出


与力松　記念碑

初めて小野小学校を訪れて驚いたのが、学校の中央に大きく育っている国の天然記念物に指定されていた与力松でした。私が初めて目にしたとき、大きな枝の一本はなくなり、鉄の柱で支えられていましたが、残った枝は校舎の上まで延び、それはみごとな樹形を保っていました。

当時の小野小学校は木造校舎が残っており、校舎と与力松の間をリスが駆け回り、与力松にはフクロウの仲間のコノハズクが訪れていました。

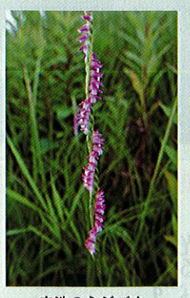
ある日、当時の校長先生が与力松の一部を理科室に持って来られて、松くい虫がいるか調べてほしいと言われるので、顕微鏡下で見てみると、数多くの松の材線虫が見られました。その後、高い松の木の上まで、何度が防除剤の散布が行われましたが、樹勢の回復は見られないということで、与力松は伐採されることになりました。上部より輪切りにされ切られていきました。輪切りにした与力松の一部は衝立になり、枝の一部は、木地氏の宮内さんにより、壺になりました。今は、小野小学校の玄関に飾られています。そして、残った根本は与力の丘に残されることになりました。まず行ったのは根元の型どりでした。木の板に粘土を張り付け、与力松の根元の樹皮に押し付けていきました。押し付けるところまではうまくいったのですが、型を外そうとしても外れません。そこで冬の寒い時季でしたが、粘土と樹皮の間に水を流し込んで外すこととなり、カッパを着て、ずぶぬれになりながら、根元と粘土の間に水を流し込んで、型を外しました。この型にコンクリートを流し込み、その後塗装をして、与力の丘の樹形ができています。使用した粘土を付けた型は、拓本をとり屏風に加工され、小野小学校に保管されています。

与力松　2世

その後、与力松の2世が地区の方に種から育てられ、今では与力の丘に大きく育っています。小野中学校でも与力松の2世、3世が順調に育っており、うれしく思っています。

今でも、与力松の樹齢は何年だったのか、ときどき話題になります。また、どうして海岸付近に多いクロマツの与力松が、小野川の河川敷の一部であろう小野小学校の敷地に生育したのか疑問は解決されていません。

3　赤池に見られるネジバナ


赤池のネジバナ

小野地区の東に、松山市農業指導センターに隣接した、赤池という池があります。池の東側には、因幡の白うさぎに登場するガマの穂が取れるガマが生育し、池の中には、実を食用にしたり、実で笛を作ったりするヒシが茂っています。

この池の西側の堤防には、6月第2週ころに、ネジバナというランの一種の花を数多く見ることができます。名前の通り、小さな花がねじれて咲く、美しい花です。以前は、重信川の堤防などでも多く見られましたが、今は数を減らしています。ここで見られるネジバナの花は、ピンク色が主ですが、白色の花も稀に見ることができます。丁度小野川でゲンジボタルが見られる時期と同じころ、ネジバナの花を見ることができますので、訪れてみてください。この池の堤防でのネジバナが多く残っているのは、池を管理されいる方々の堤防の草刈りのおかげだと思っています。今年も赤池を訪れてみると、綺麗に草刈りがなされていました。きっと今年もきれいなネジバナの花が見られることと思います。

隣接する、松山市指導農場の方とは、アボガドが小野地区で冬越しできるか調べるために、自宅で何年も育てたり、いただいた食用になる断面が四角いヘチマの種を育て、松山市の全小学校にヘチマの実を配布し、調理方法を考えたり、紅マドンナやユズの収穫を松山市自然科学教室でさせていただいたりした思い出があります。

46年前越してきた小野地区も市街化が進み人口もかなり増えましたが、貴重な動植物も多く生息しています。皆様も是非、小野地区の自然を再確認していただければと思います。

次回は小野川上流の自然について紹介してまいります。